

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和3年3月31日時点】

団体名		一般財団法人吹田市介護老人保健施設事業団				所管部室(課)名		福祉部 高齢福祉室	
所在地		〒564-0082		吹田市片山町2丁目13番25号					
設立年月日		平成3年11月30日			代表者職・氏名		理事長 春藤 尚久		
基本財産		100,000,000円		①本市出資金(本市の出資割合)		円(%)			
				②本市出捐金(本市の出捐割合)		100,000,000円(100%)			
設立目的	高齢者等に対する保健、医療、福祉対策の円滑な推進を図るため、在宅介護に供する事業並びに調査、研究事業及び関係諸団体の協力を得て介護老人保健施設の運営を行い、もって市民の福祉の向上に寄与することを目的とする。								
事業内容	1 高齢者等の保健、医療に関する相談及び指導並びに知識の普及啓発事業 2 高齢者等の保健、医療に関する調査研究事業 3 吹田市介護老人保健施設の受託運営事業 4 高齢者等の保健、福祉に関する事業 5 施設での教育・実習事業 6 介護保険に関する事業				(具体的な事業内容)				
		合計(市職員及び元市職員以外も含む。)				合計(元市職員以外も含む。)			
				うち市職員	うち元市職員			うち元市職員	
役員数(人)	理事 (取締役)	常勤	1	0	0	職員数(人)	常勤	38	0
		非常勤	7	2	0		再任用(※1) 常時勤務	0	0
	監事 (監査役)	常勤	0	0	0		再任用(※1) 短時間勤務	0	0
		非常勤	2	1	0		非常勤	3	0
65歳以上の役員数(※2)(人)		4			0	臨時 雇用員	43		0
評議員(人)		10		0	0	65歳以上の職員数(※2)	8		0
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。(いずれかに○)						該当 ・ <input checked="" type="radio"/> 非該当			
【該当する場合のみ記載】内容									
元市職員に対して退職金を支給している。(いずれかに○)						該当 ・ <input checked="" type="radio"/> 非該当			
【該当する場合のみ記載】内容									

※1 再任用職員とは、60歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和2年度決算】

団体名		一般財団法人吹田市介護老人保健施設事業団		所管部室(課)名		
				福祉部 高齢福祉室		
財務状況(円)	損益計算書	総収入	522,359,115	貸借対照表	資産の部合計	338,607,123
		(うち市受入金)	0		負債の部合計	218,393,469
		(その他)	522,359,115		(うち有利子負債)	0
		総費用	540,734,035		正味財産合計	120,213,654
		経常損益	△ 15,035,920		(うち一般正味財産)	120,213,654
		当期損益	△ 15,035,920			
市から団体への支出(円)	主な内容、算出根拠等					
	フロー	補助金	0			
		委託料	0			
		指定管理料	0			
		その他	0			
		計	0			
	ストック	貸付金残高	0			
		債務保証残高	0			
		損失補償残高	0			
		出資金(出損金)	100,000,000			
		その他	0			
計		100,000,000				

# 令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間: 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

団体名	一般財団法人吹田市介護老人保健施設事業団	所管部室(課)名
		福祉部 高齢福祉室

## 1 団体による評価

◎→できている ○→概ねできている △→一部できている ×→できていない

### (1) 運営に関する評価

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	規程等を適切に整備している。	◎	規程等の整備、役職員の配置状況は適切な実施状況にあり、採用においては、公募による公平な採用選考を確保している。また、法人独自の給料制度の採用、職員研修の積極的な実施を行っている。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	◎	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	民間の理事、評議員等や施設利用者のアンケートからニーズの把握に努め、事業の見直し等を定期的に行っている。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	○	指定管理期間は5年、介護報酬改定は3年ごとに行われるため、長期的な経営計画は困難である。利用料金制度による自主独立採算での運営であり、財務管理は適切に行われている。節電やデータでの書類管理はもちろん、多量で必要となる感染症対策消耗品をより安価で購入し使用方法を職員間で見直す等、経費削減に積極的に努めていた。税理士による確認、公認会計士による監査等も実施し、監査体制の強化にも努めている。
	自主財源の確保に努めている。	◎	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	法人のホームページにおいて、経営状況、理事会議事録等を公開している。また、個人情報保護に関しては、規程も整備しており、適切な運用をしている。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

# 令和3年度外郭団体活動状況評価シート No. 4

【評価対象期間: 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

団体名	一般財団法人吹田市介護老人保健施設事業団	所管部室(課)名
		福祉部 高齢福祉室

## (2) 事業に関する評価

### ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和2年度目標	令和2年度実績	(参考) 令和元年度実績
	成果指標			
介護老人保健施設 入所(長期・短期)	1日平均入所人数	92.0人	87.7人	88.5人
	延べ利用者数	33,580人	31,986人	32,388人
介護老人保健施設 入所(長期)	居宅訪問回数	96回	10回	88回
	在宅復帰率	60.0%	41.1%	58.1%
介護老人保健施設 通所	利用者数	130人	125人	135人
	延べ利用者数	10,500人	6,909人	7,973人

### イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
回想法ボランティアの養成	回想法に興味・関心のある市民を対象に回想法ボランティアとしての知識及び技術の普及を行う。	新型コロナウイルス感染症拡大により、中止を余儀なくされた。令和3年度以降はオンラインでの開催を検討。

## (3) 今後の取組方針 ※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

<p>介護老人保健施設における人材確保(看護師、介護職員)は、非常に困難な状況にある中、令和2年度より定年退職者が出始めた。計画的に人材確保に努めたい。また、財政運営では、感染症拡大により、特に通所リハビリテーションで利用を自粛する人が多く、収入の減少に繋がった。今後も利用自粛が起こりうるため、収入確保が必要であるが、事情性質上、新たな事業展開による大幅な収入増は難しい。そのため、経費削減等に関して、介護サービスの低下を招かないよう慎重に議論をしながら、随時見直しを図りたい。</p>
--

# 令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間: 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

団体名	一般財団法人吹田市介護老人保健施設事業団	所管部室(課)名
		福祉部 高齢福祉室

## 2 市による評価

◎→できている    ○→概ねできている    △→一部できている    ×→できていない

### (1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	○	例年開催していた養成講座等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。しかし、オンラインでの実習、研修等に使用できる認知症高齢者に関する動画作成を行い、本市施策の推進、福祉の向上に寄与した。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	○	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	◎	ボランティアや実習生の受入れ、認知症カフェ等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したが、実習は一部オンラインで実施した。 認知症カフェ等の事業再開に向け、アンケート調査を行い、地域ニーズを把握している。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	○	

### (2) 団体の自己評価に対する市の見解

サービス面について、指定管理業務だけでなく、オンラインでの実習開催、認知症啓発等にも精力的に取り組んでいる。利用者ニーズや満足度はアンケートで把握しており、「おおむね満足」との回答を得ている。マイナスな意見があった場合、役職者会議で吟味し結果のフィードバックを行い、サービス向上に繋げている。

財政面については、現在もLED化や不必要な電気の消灯等でコストカットに努めている。しかしながら、利用料金制というサービスの提供実績に比例した収入体制であることから、新型コロナウイルス感染症拡大による利用控えの影響を受けやすいため、経費削減が必要であるが、サービス低下やスタッフの人材流出を引き起こさない方法を模索する必要がある。

新型コロナウイルス感染症拡大による利用控えもあり、いずれのサービス利用者数も目標値に対し下回る結果であるため、今後も利用者確保に努められたい。

### (3) 市の関与に関する今後の方向性

吹田市介護老人保健施設の管理運営については、現在では私営の介護老人保健施設も増加しているため、公営施設としての差別化を図るとともに当該施設の在り方について、今後検討する必要がある。

施設等のハード面については、開設から29年が経過しており、老朽化が進んでいる。基本協定書に則り適宜修繕を実施しつつ、安定的な施設運営を図る。